

2018年度 学校関係者評価

【 専修学校ガイドライン 及び ISO29990 】



学校法人シモゾノ学園

国際動物専門学校

【 2018年(平成30年) 8月29日 】

1. 学校関係者評価委員会

■ 学校関係者評価委員

- | | |
|--|----------|
| <input type="checkbox"/> 小澤 琢爾 氏 (公益社団法人 日本動物病院協会) | 企業等評価委員 |
| <input type="checkbox"/> 齊藤 勉 氏 (東京都立 東大和南高等学校 教諭) | 高校等評価委員 |
| <input type="checkbox"/> 國分 達夫 氏 (東京都立 晴海総合高等学校 元校長) | 高校等評価委員 |
| <input type="checkbox"/> 石川 肇久 氏 (石川税務会計事務所 所長) | 専門家等評価委員 |
| <input type="checkbox"/> 丸山 一夫 氏 (光が丘動物病院グループ 看護師長) | 卒業生等評価委員 |
| <input type="checkbox"/> 矢口 久枝 氏 | 保護者等評価委員 |

■ 2018年度 第1回 学校関係者評価委員会

- 2018年7月24日(火) 15:00から17:30 【国際動物専門学校 会議室】
 - ① 開式の辞
 - ② 委員のご紹介
 - ③ 委員長の選任
 - ④ 学校関係者評価の概要説明
 - ⑤ 学校施設案内と授業参観
 - ⑥ 2018年度 自己点検・評価の報告
 - ⑦ 意見交換等
 - ⑧ 次回までの流れ
 - ⑨ 閉式の辞

■ 2018年度 第2回 学校関係者評価委員会

- 2018年8月29日(水) 15:00から17:30 【国際動物専門学校 会議室】
 - ① 開式の辞
 - ② 学校関係者評価のまとめ
 - ③ 学校関係者評価のまとめを踏まえた、意見交換等
 - ④ 閉式の辞

2. 学校の教育目標

■ 教育理念

「心を大切に 感謝の気持ちで自然を思い 人と動物の真の共存共生」

■ 教育方針

- 専門性の追求
「動物を取り巻く環境をしっかりと理解し、動物業界で求められる知識・技術を追求し、戦力となる人財を育成します。」
- 道徳性・人間性の育成
「感謝の心を失わず、挨拶をはじめコミュニケーション能力の高い、品格の備わった人財を育成します。」
- 動物福祉の実践
「動物の生命 及び 尊厳を守る精神を養い、自然・環境・動物との共存共生を実践し、広く社会に貢献できる人財を育成します。」

3. 2017年度の重点的に取り組む目標・計画

■ 教育関連事項

- 職業実践専門課程における、教育課程編成委員会を通じた教育目標と教育課程の質の向上を行う。
- 学生 及び クラス に合わせた教育の仕方等の検証と改善を通し、教育の質の向上を行う。

■ 学校運営関連事項

- 入学対象者の情報の受け方に合わせた、学生募集の仕方の検証と改善を通し、定員数を獲得する。
- 教職員が能動的・効率的に職務に取り組めるよう、学校運営の仕方の検証を行い、改善に活かす。

4. 評価項目の達成 及び 取り組み状況

- 評価は、4段階で行う。
- 評価項目に対し、専修学校ガイドライン 及び ISO29990 に基づく評価指標に則って評価を行う。

1. 教育理念・目標		評価	特記
1-1	学校の理念や社会のニーズを反映する教育目的・育成人財像は明確に定められているか。(専門分野の特性が明確になっているか。)	4	
1-2	学校における職業教育の特色は明確になっているか。	4	
1-3	学校の理念・目的・育成人財像・特色・将来構想等が学生・保護者等に周知されているか。	4	

【 学校関係者評価 】	
① ご意見・ご質問 等	<ul style="list-style-type: none"> → 自己点検・評価と学校関係者評価を通した学校運営の検証と改善に加え、教育課程編成委員会を通した社会のニーズの反映等を通した教育の質の向上が適切に行われていることを評価するとともに、さらなる質の向上に期待する。 <ul style="list-style-type: none"> → 継続し、取り組む。 → 学校の理念等に沿った学校運営を推進していくには、シラバスの果たす役割が大きいと考える。シラバスを充実させることで、学校運営 および 教育の質を向上させられ、さらに、教育機関としての説明責任を果たすことができると考える。例えば、シラバスの項目に、「学校の理念との関連」を設ける等の工夫が検討できる。 <ul style="list-style-type: none"> → シラバスの様式の見直しと利活用方法を検討する。 → 保護者との情報共有の方法について、現状の取り組みを評価するとともに、スマートフォンアプリを活用するなど、伝えたい情報をより効果的・効率的に届けられる工夫をさらに行うことを期待する。 <ul style="list-style-type: none"> → 頂いたご意見を踏まえ、取り組みを検討する。 → 現在行われている、学校の教育活動や社会貢献活動はとも評価ができ、また、小笠原の亀の育成活動等はインパクトが非常にあると考えられるので、HP・Facebook・インスタグラム等にてより社会に伝えることを推進することを提案する。動物と過ごすことで心身が健全になり、自身と周囲が明るくなり、ひいては社会全体をより良くする公的貢献度の高い学校であることをより広め、知名度の向上を図るとともに、入学生の確保や教職員の人財確保、外部団体・関係者よりの協力を得られるものとする。 <ul style="list-style-type: none"> → 学生募集に重きを置いている状況である。頂いたご意見の通り、Facebookは学校のブランディングに関わるツールとしてまだまだ活用できると考えるので、取り組みを検討する。 → 卒業生との定期的な意見徴収・交換は、フェイスブック等の個人情報がおープンになってしまう形式ではなく、学校HP内等に学校関係者のみでやり取りができる情報交換ページや卒業生による近況報告ブログ等を整備して行うことはどうか。 <ul style="list-style-type: none"> → 学校HP内にパスワード付きのページを設け、運用している。今は、在校生とその保護者のみが対象となっているので、卒業生も利用できる内容を検討する。
② 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> → 特になし。

2. 学校運営		評価	特記
2-1	教育方針や教育目標等に沿った運営方針が策定されているか。	4	
2-2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか。(教務・財務の意思決定システム制度は整備されているか。)	4	

2-3	学校運営に関する(事業計画・予算編成・教育活動等)に対する評価を結論として取りまとめた評価報告書を作成しているか。	4	
2-4	運営組織や意思決定機能は規則等において明確化され、人事・給与に関する規程も含め、有効に機能しているか。	4	
2-5	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。	3	
2-6	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	3	

【 学校関係者評価 】

① ご意見・ご質問 等

- 学校運営に関し、エビデンスを明確に示されていることも含め、適切なものとする。整備を必要としているハラスメント類のマニュアルであるが、ハラスメントに関する相談等を担当する者や内部監査を担当する者を当該情報の漏えいがないように運用できることに配慮した、第三者的な立場の者とするのが望ましいことを提案する。また、障害者雇用制度や教職員の心的障害への継続した対応に期待する。
 - 継続して取り組む。
- 都立高校では、毎年度の初めに、学校経営計画(目指す学校像、中期的目標と方策、今年度の取り組み目標と方策)を策定し、学校HP等で公表している。また、年度末には、学校経営報告を行い、1年間の取り組みの状況を公表する取り組みを行っていることを参考にすることを提案する。
 - 職業実践専門課程の取り組みの中で、情報の公開が要件となっている。文部科学省の様式に則って情報公開をしているが、学校独自の項目を追加する等、適切な情報公開を行う。

② 特記事項

- 特になし。

3. 教育活動		評価	特記
3-1	教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	4	
3-2	教育理念・育人財像・業界のニーズを踏まえ、修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4	
3-3	教育理念・到達目標に沿って、学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。	4	
3-4	講義 及び 実習に関するシラバスは作成されているか。	3	
3-5	学生によるアンケート等をもとに、適切に授業評価を実施しているか。	3	
3-6	適切な評価体制を有し、授業評価が実施されているか。(教育内容 及び その評価方法・手段・スケジュールは適切か。)	4	
3-7	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。	4	
3-8	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	4	
3-9	人財育成目標の達成に向け、各授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。	3	

3-10	動物看護職関連分野との連携による優れた教員（専任・兼任共に）を確保するための活動が行われているか。	3	
3-11	関連分野における先端的な知識・技術等を修得するための研修や教員の指導力育成等の資質の向上のための取り組みが行われているか。	3	
3-12	カリキュラムは、自主学習を含む学習時間・学習方法を学生の生活時間や学習時間に配慮して設計されているか。	2	
3-13	講義に関し、機構推奨のコアカリキュラムあるいはそれに準じたカリキュラムが実施されているか。	4	
3-14	実習に関し、機構推奨のコアカリキュラムあるいはそれに準じたカリキュラムが実施されているか。	4	
3-15	講義・実習等の受講前に学生の能力等に不足がないかを確認するためのアンケートやヒアリングを行っているか。	3	
3-16	動物を使用する実習・実験等に関し、これらに関する倫理や動物の福祉についての規則やマニュアルが整備され、公表されているか。	3	
3-17	学生の成績情報等への閲覧制限が適切に設定されているか。 ※ 本項目は、3段階で評価し、3評価が最高評価となる。	3	

【 学校関係者評価 】

① ご意見・ご質問 等

- 学生の手引き・授業シラバス・年間スケジュールの工夫が現状の課題の解決に繋がるものとする。特に、シラバスは、学生が事前に学びの方向性や全体像をとらえるのに不可欠なものであり、授業の準備や学習成果が得られるベースとなるものとする。そのため、年度初めには冊子等の形式にて配布することが望ましいが、学校HP内の鍵付きページ等にて閲覧できる取り組みが必要である。
- ご意見を踏まえ、できる限り情報の一元化に努めるように取り組む。
- 学校ではとても元気に挨拶をしていた。インターンシップ実習でも同様に声を出して欲しいと考える。緊張や不安はあると思うが、店舗ではなぜ大きな声で「いらっしやいませ」「ありがとうございました」と言うのかを理解できれば、自然とより声が出ると思う。ぜひ、インターンシップ実習前に学生がよい挨拶をできるように引き続き教育することを期待する。
- 就職セミナー等にて教育しているが、教育内容を検討し、より良い教育ができるように取り組む。
- 現場では、動物と触れ合う時間が長く、動物の変化・異常をいち早く見つける目とその対応の仕方が身に付いている必要があると考える。複数人で動物の日常を共有するカルテについて、どのような学生でも必要な情報が適切に記入・理解できるように引き続き教育することを期待する。また、真面目に取り組んでいる人は社会に出てから必ず得をすると考えるので、そのことを声に出して学生に伝え、学生の意欲と自信を醸造させることを期待する。
- 教員のカルテに関する指導方法を検討するとともに、ご意見の通りに、真面目に実直にやる事が大切であると思うので、それが学生にしっかりと伝わるように、引き続き指導する。
- 授業前の学生の能力等について、教育の質を高めるにあたり、学生本人の学習の理解を高めることが求められ、学習前の基礎の理解は非常に重要であると考えられるので、可能な限りのサポートを行う取り組みが必要である。
- ご意見を踏まえ、引き続き教育する。
- シラバスの作成と活用による学生の学習成果の向上について、学生が授業・実習にて学習している内容が卒業後にどのように活用できるのか(職場にてどのような理由で必要な内容なのか)をあまり理解している印象が少なく感じる。日々の授業をより意味のあるものとする取り組みが必要と考える。
- ご意見を踏まえ、立場が近い卒業生から在校生に学習内容を伝えることで学生の自ら学ぶ力の醸造に繋がると考える。教育内容・方法を検討する。
- 教育担当者の能力によって、学生の成長は大きく異なると思われる。専門分野の知識や学生指導の仕方の隔たりをより少なくさせるために講師会を行っていると思うが、講師会の取り組み内容やゴールが兼任教員からすると不明であることを改善するとよりよい教育が行えると思うがどうか。
- 講師会に参加できない兼任教員との情報共有の仕方については課題であるので、改善できるように検討する。

- 教員の確保について、意欲の高い大学や実業界で定評の高い実務家とのコネクションづくりをするなど、多様なルートの確保が肝要と考える。また、関連分野における教育側の先端的な知識・技術の習得 および 質の向上について、医学業界は共通カルテの導入・普及が進んでいることを勧奨し、LAN環境の整備のもと、タブレットによる情報共有・交換を推進するのはいかがであろうか。自主学習についても、タブレットを活用し、優れた方法の者を表彰するとともに、その方法を他の者に共有する取り組みも可能と考える。環境の整備には補助金の申請ができる場合もあると考えるので、考慮することを提案する。また、LAN環境の整備により、ネット講義の実施も可能かと考えるので、学習成果を踏まえた検討を提案する。
 - ご意見を踏まえ、引き続き取り組む。
- 第三者による評価制度の構築について、どのような評価項目や基準があるのかは分からないが、全ての授業を第三者が評価することは現実的に難しいと考えるので、各専門分野から第三者を呼び、関連する授業を1日分参観してもらうことを年に3回ぐらい行うのはどうか。各学科ごとに第三者の都合のよい時に取り組むなど、実施しやすい工夫をすることを提案する。
 - 前段階の取り組みとして、研究授業を行っているが、まずは教育力（授業の仕方）についての振り返りが確実にできるように評価項目・基準を再設定し、授業参観にて振り返り・改善を行う。頂いたご意見を踏まえ、充実した取り組みが行えるように検討する。
- 学科により実践の難しさはあると思うが、在学期間中、1年次からの学習や研究の積み重ねをなんらかの形で成果を残せたり、発表できたりといった機会を設けることはどうであろうか。例えば、看護系学科であれば、消臭系や殺菌系の商品の効果・効能の研究や介護系ケア用品の開発・改善、美容系学科であれば、皮膚病関連のシャンプーの効果・効能やサプリメントの効果・効能等の学習・研究を行い、学生にはやりがいと学習・研究意欲の醸造、学校は動物関連企業との関係強化等が見込めるのではないか。
 - 各学科ごとに学習成果を発表できる機会は設けている。専門学校として求められる内容を精査し、引き続きより良い教育ができるように検討する。
- 美容実習に関わる教職員の競技会への出場を促し、技術力等の向上を図るとともに、よい結果が残った際には能力・意欲の向上が図れると考える。また、そのような競技会を学生が見学できれば、学生の学習意欲や将来構想により影響が与えられると考えられるのではないか。
 - 2012年より動物の負担を考慮したトリミング知識・技術を学校独自で考え、取り組んでおり、社会・企業等から一定の評価を得ている。しかし、本取り組み自体は日本全体には広がっておらず、同じ主旨でトリミングを行っている競技会は現状では見受けられない。賛同する学校や団体と連携し、学外競技会の実施と参加が図れるように取り組む。

② 特記事項

- 動物看護技術に関する協議会の実施を検討する。

4. 学習成果		評価	特記
4-1	就職率の向上が図られているか。	4	
4-2	資格取得率の向上が図られているか。	4	
4-3	入学者に対する卒業率はどうか。	3	
4-4	在校生の社会的な活動に対し、それを把握し、評価する体制があるか。	3	
4-5	学生の学習成果の評価に際して、育成する人財像に沿った評価項目を定め、明確な基準で実施されているか。	4	
4-6	教育・訓練 及び 実習等を委託する場合、その目的・要望事項・評価項目等の依頼を明確にしているか。	4	
4-7	総合臨床実習（インターンシップ実習）について、依頼先の獣医師等と十分なコミュニケーションをとり、その内容・評価方法を事前に定め、評価しているか。	3	

① ご意見・ご質問 等

- 動物分野への就職率が95%以上という数字で継続されていることは、学校の教育・学生の希望・社会のニーズがうまく連動していることの表れであると、高く評価できる。できれば、就職後の1・2・3年目に卒業生に対し、継続した在職か転職なのか、職務内容の状況等のアンケートを実施し、学校教育や不用意な離職者となるべく出さない就職サポートの仕方の振り返りが行えることを期待する。
 - ご意見を踏まえ、取り組む。
- 就職率を高めることは、本人や家庭の状況等の学校以外での要因もあるので、理想と実現可能な水準に差があってもやむを得ないこともあるが、在校生・受験生・保護者からの学校への信頼を得られる大きな要因であると考えられるので、取り組みの工夫を通じ、質のさらなる向上に期待する。また、就職希望者率を高める取り組みの充実にも同様に期待する。人は、職を通して社会に関わっていくことで、自己実現を図るものだと捉える。この意味で、職業理解や自己理解教育は重要であると考えられ、学校としてのさらなる取り組みに期待する。
 - 就職を希望する学生の数が微減してきている。就職セミナーを通して教育を継続し、卒業者数・就職希望者数・就職内定者数が同数となるように教育内容を検討し、取り組む。
- 中途退学者の個別的な状況を一般化して捉え、今後の対応に繋げることが重要であると考ええる。これには、「目的意識を持った入学、オープンキャンパス等での学校理解、学費への対応」等の視点に区別した取り組みを続けることが重要と考える。また、日常的な学生の学習意欲や就学姿勢等の把握と個々のフォローを引き続き行うことを期待する。
 - ご意見を踏まえ、取り組む。
- 授業科目ごとに到達目標があり、学習成果の基準も授業科目によって異なるものである。シラバスに授業科目ごとの学習成果の到達目標を入れ込み、それに沿った成果判断を引き続き行うことを期待する。また、ボランティア等の社会的な活動について、自己評価・外部評価も大事だが、自主的・積極的に参加したのかどうかという点も大事な点であると考ええる。学校HPで活動実績を公開し、その活動を称える取り組みをするのはどうか。
 - ご意見を踏まえ、取り組み内容を検討する。
- インターンシップ実習の一連の流れを踏まえ、事前に評価方法について連携を密に取ることは受け入れ側としても難しさを感じる。それぞれの受け入れ先で学生にさせられる内容が異なることに加え、学生の能力も個人差があることが現状だと考える。実習期間中に学校の教職員がご挨拶に来ることがあるので、その際に、評価方法等の摺り合わせを行うのはどうか。その際に、訪問時間の事前調整等を行うことは大事だが、多忙な受け入れ先では難しい場合も大いにあることは仕方がないとも考える。
 - 文科省委託事業での取り組みも踏まえ、汎用的かつ実用的なガイドラインを作成し運用する。
- インターンシップ実習先を探すにあたり、過去にどのような企業に行っていたのか、また、行けるのかを大まかにでも提示されることで、学生の視野や行動が広がると考えるので、取り組みを期待する。
 - 就職相談室で閲覧できるようにしているが、離れた校舎の学生がその全てを見ることが出来にくい現状を改善できるように取り組む。

② 特記事項

- 特になし。

5. 学生支援		評価	特記
5-1	進路や就職に関する支援体制が整備され、学生や保護者等に周知されているか。	4	
5-2	学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか。	4	
5-3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	4	
5-4	学生相談に関する体制は整備されているか。(相談窓口が設置されているか。)	4	
5-5	課外活動に対する支援体制は整備されているか。	4	

5-6	学生の生活環境への支援体制は整備されているか。	4	
5-7	保護者との連携は適切に行えているか。	3	
5-8	卒業生への支援体制は整備されているか。	3	
5-9	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	3	
5-10	高校や高等専修学校等との連携によるキャリア教育や職業教育の取り組みが行われているか。	3	

【 学校関係者評価 】

① ご意見・ご質問 等

- 高校の進路指導は、旧来の進学指導とは異なり、キャリア教育で代表される「目的意識を持った進路決定」へ変わりつつある。この視点からも、多くの高校と連携を深めることはとても有意義であると考えられるので、引き続きの取り組みを期待する。
 - ご意見を踏まえ、引き続き取り組む。
- 奨学金において、貸与形式によるものは、慎重に話をするべきであるとする。特に、返金の計画については学生自身が立案・実行できるように綿密な指導が引き続き必要とする。
 - 重要な件であると学校も認識している。安易に勧めることなく、将来を見据えた指導を行う。
- 卒業後の学生の情報を継続的に把握することは、教育の社会的ニーズを活かすためにも必要な取り組みであるとする。また、学校HPに、卒業生向けの求人欄があるが、実際に再就職の窓口を設け、より相談しやすい取り組みを行うことを期待する。
 - 現状、内容としては再就職の相談等を行っているが、窓口のネーミングも含め、取り組みを検討する。
- 卒業生の学校への思いは在学中の教育・学校生活の満足度と比例するものとする。また、卒業生対応が増えることは、教育の充実の証ではないかと考える。卒業生が勤務年数の長期化に伴う、キャリアアップに関する悩みを相談できる集まりが催せられれば、それに集まる卒業生も多くなるのではないかと考える。
 - 学友会の開催等の実績を踏まえ、学校が主催することは集客性において難しいことが予測される。卒業生の支援は学校としても全面的に協力をするので、卒業生自身が取り組みたいテーマを提案し、その会合の運営支援を学校として担える体制づくりを検討する。
- 問い合わせ対応マニュアルの整備について、専門家の意見を取り入れる事を提案する。
 - 弁護士等の専門家の意見を踏まえ、整備を行う。
- 動物業界は人の入れ代わりが激しい状況で、専門職としての意識も低いのか、一般職と比べ、お休みが少なかったり、お給料が少ない企業が見受けられる。学校を卒業し、知識や技術は身に付いていても、専門職としてはまだまだであると考えられるので、努力したものは裏切らないと信じ、「石の上にも3年」の気持ちで精進することを卒業生には期待する。また、社会人としての常識の低さを他校も含めて感じる。遅刻や休み等の連絡の入れ方やお化粧・髪の毛の色等の身だしなみ、言葉遣いを特に教育されることを期待する。
 - ご意見の通りと考え、引き続き教育する。

② 特記事項

→

6. 教育環境		評価	特記
6-1	施設・設備は、教育上の必要性に十分に対応できるように整備されているか。	4	
6-2	防災に対する体制は整備されているか。	3	
6-3	実習室には検査に必要な設備が整備されているか。	4	

6-4	基本的な動物看護実習に用いる動物を使用できる実習室が備わっているか。また、必要な数の動物が使用できるか。	4	
6-5	自己学習に必要な図書室 ないし 図書スペース 及び コンピューターが利用できる環境が整備されているか。	4	
6-6	学校の施設や備品等は、定期的に管理・点検されているか。	4	
6-7	実習室等の学校施設や設備の利用割り当て（スケジュール管理）が明確になっているか。	4	
6-8	海外研修制度はあるか。また、その際の学生への指示・教育は十分に実施されているか。	4	

【 学校関係者評価 】

① ご意見・ご質問 等

- 学校の施設・設備については充実しており、適切なものとする。また、学校飼育動物の種類・頭数については、動物種ごとの特性等を踏まえ、アニマルウェルフェアを考慮した飼育・健康管理 及び 教育活動がなされていることは高く評価できる。課題で挙げられている猫についても同様に、教育的必要性と飼育環境を考慮した頭数の検討を期待する。
 - ご意見を踏まえ、引き続き取り組む。
- 学校見学の際、動物を飼育している部屋に個々の動物に対する細かい注意書きがあるのを拝見し、情報を共有して動物に接しようという姿勢を感じた。つい起こりうる、うっかりミスによる事故防止に努めていることが理解できた。施設・設備の充実度の評価については、策定は極めて困難とは思われるが、動物系専門学校同士の連携によって、教育レベルの保証に必要な物品・備品のガイドラインが策定されれば、評価はよりしやすくなると思う。
 - コアカリキュラムはガイドラインをもとに整備されているので、教育課程に付随した形式で必要な施設・設備のガイドラインが作成されるように検討し、取り組む。
- IAC東京校とIAC大宮校で設備でやや差があるように見受けられるが、設備による学習成果の差は生じているのであろうか。また、設備だけでなく、講師による教え方や力量による学習成果の差が生じているのであろうか。
 - 教育担当者による学習成果の違いは多少なりとも生じると考えるが、最終的な取得目標の合格率に差異は見受けられないので、全体の底上げを図れるように取り組む。
- 非常時への対応について、建物の構造上、階の移動にはエレベーターの使用が多いことに関する防災上の問題への対応が必要と考える。避難訓練についても、避難に慣れることが肝要と考えるので何度か実施することも必要と考える。所轄の消防署と連携し、相談をしながら取り組みをされることを期待する。
 - ご意見を踏まえ、取り組み内容を検討する。
- 避難訓練に関して、人命優先として人間が避難することを基本とした非常時対応マニュアルに加え、動物と一緒に避難するケースも検討するのはどうか。また、それらの経験やマニュアルをもとに、防災関連のイベントに参加し、ペットを同伴する避難に関する情報提供を行うことはどうか。
 - 現状、教育機関として人命を第一とした取り組みをしている。動物の同行避難については今後の課題として取り組み内容を検討する。
- ユーモアのある動物の展示は大切と考える。動物の展示に関して、パソコンで作成するPOPも大事だが、手作りのPOPも必要性を感じるので教育することを期待する。
 - 現状の教育内容に加え、手作りのPOP作成に関する教育内容も検討する。

② 特記事項

- 特になし。

7. 学生の受け入れ募集		評価	特記
7-1	学生募集活動は適正に行われているか。	4	

7-2	学納金は妥当であるか。	4	
7-3	特別な対応が必要な学生への対応を定め、共有しているか。(身体的事項や精神的事項等)	3	

【 学校関係者評価 】

① ご意見・ご質問 等

- 学生募集について、募集方法や説明内容等を踏まえ、適切と考える。また、オープンキャンパスの種類や回数についても積極的な取り組みがなされ、学納金についても明確に公表されており、金額の妥当性の基準も明確であると考え。
- 引き続き取り組む。
- 進路決定が難しい特別な対応が必要な高校生について、専門学校側からのアドバイスがあると、学生本人・担任・高校としてもありがたいと考えるので、情報共有の充実を期待する。
- 情報共有については引き続き取り組む。高校生の要望に合わせ、模擬面接を行ったりと今後も入学支援を出来る限り行う。
- 入学前により学校の取り組みを知ってもらえるよう、学校案内書に先輩のコメントを入れたり、社会貢献活動をもっと強調するのはどうか。授業や学生生活・学生寮は動画やVRでPRすることも実施効果を見定めながら検討されてはどうか。
- ご意見を踏まえ、引き続き取り組む。
- オープンキャンパスに参加してもらえるスタンプを集めると得られる特典制度があまり活用されていないようだが、どのような状況であるか。
- スタンプを3つ集めることで特別な参加賞がプレゼントされるという取り組みを通し、OCへの参加回数を増やす取り組みをしている。自己推薦入試の資格取得要件としても併用している。度が過ぎてしまう参加賞は学校としての価値を下げてしまう恐れもあるのでバランスを考えて取り組み内容を検討する。

② 特記事項

- 特になし。

8. 財務		評価	特記
8-1	中・長期的に学校の財務基盤は安定しているか。	4	
8-2	予算や資金収支計画は有効かつ妥当であるか。	4	
8-3	財務について、会計監査が適正に行われているか。	4	
8-4	財務情報の公開の体制整備はできているか。	4	

【 学校関係者評価 】

① ご意見・ご質問 等

- 財務について、学校基本情報で公開されている通り、健全で透明性の高い運営がされていると評価する。
- 引き続き取り組む。
- 周囲への判断材料として、2・3年後にはどの程度の資産規模・売上規模を目指しているかという情報を開示し、業績が伸びそうだから投資しようか？入学させようか？という者を募ることはどうなのであるか。
- ご意見を踏まえ、取り組み内容を検討する。

② 特記事項

- 特になし。

9. 教育の内部質保証システム		評価	特記
9-1	法令や専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がされているか。	4	
9-2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	2	
9-3	自己点検・評価の実施と課題の改善を行っているか。	3	
9-4	自己点検・評価の結果を公開しているか。	3	
9-5	教職員の職務記述書を作成し、これらを適切な期間ごとに見直ししているか。	3	
9-6	評価目標 及び 想定される評価範囲を整理し、記述できているか。	2	
9-7	教職員に対する評価方法・スケジュール・評価の仕方等が書類として文書化されているか。	3	

【 学校関係者評価 】

① ご意見・ご質問 等

- 個人情報の保護に関する体制の整備を行う必要がある。都立高校では、パソコンのUSBポートを管理したり、試験の解答用紙を学校外に持ち出す際の管理等を徹底し、服務事故に繋がらないように個人情報の保護に努めていることを参考事例として提示する。
- 部署ごとに情報の収集・保管・利活用方法の指針が示されており、教職員も意識を高く取り組んでいるので大きな問題は生じていないが、USBポートの管理を含め、ご意見を踏まえた取り組みを検討する。

② 特記事項

- 特になし。

10. 社会貢献・地域貢献		評価	特記
10-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献、学生のボランティア活動の奨励や支援、地域に対する公開講座や教育訓練（公共職業訓練等を含む。）の受託等を積極的に実施しているか。	3	

【 学校関係者評価 】

① ご意見・ご質問 等

- 社会貢献・地域貢献について、その実施状況を課題としている動物系専門学校はあまりないと考えるので、その意味で大いに評価できる。地域公開講座等の実施や近隣の小中高校からの職業体験の実施は地域への貢献事業であるのみならず、学校の在り方や取り組みを地域の方に伝えられる良い機会であると考え、継続した取り組みを期待する。
- ご意見を踏まえ、継続して取り組む。

→ 学園祭は地元の方にも開放し、動物との触れ合いの場にし、学校のファンづくりを併せて行うのはどうだろうか。また、東京青山ロータリークラブやJAHA、老後老人ホームやボーイスカウト等と共催の事業を行い、外部団体との連携の強化や学園祭の集客に繋がれると考える。また、このような社会貢献活動を文科省や厚労省等へのPRを通じ、学外からの協力の強化と学内の自己研鑽の意識の向上を図り、プラスのスパイラルを形成することを提案する。

→ どうぶつ祭り(学園祭)は、学生への教育並びに社会貢献・地域貢献を第一に取り組みをしており、お陰様で来校者数は非常に高い数字となっているので、来校者の満足度を高められる取り組みを継続して行っている。頂いたご意見を踏まえ、関連省庁にも学校の取り組みを知っていただく機会とできるように取り組み内容を検討する。

② 特記事項

→ 特になし。

【 学校関係者評価 】(総評)

① 総評

→ 昨年と比べても改善への取り組みが見られ、学校がより良くなっていると考え。もちろん、学校運営と教育活動をより良くする課題はまだあるが、専任教職員・兼任教職員 及び 学外団体・関係者とで引き続きもろもろの取り組みを継続して行うことを期待する。

→ 学校施設案内にて、いろいろと拝見させていただき、一番に思ったことは、学生の挨拶の良さに驚き、また、イキイキと将来の目標に向かって頑張っている姿に感動した。学校HPについては、これまであまり見ることはなかったが、本取り組みを通じて、たくさんの情報が学校HPにて開示されていることを再認識し、活用しようと考えた。また、授業参観の有意義さを感じられたため、他の保護者にも授業参観できる機会を設けられないかを期待する。